

初心者アンカー、伝説のゴール

大部屋出身の俳優 土平ドンペイさん(52) 草津市

はい上がる人

わたしの歩跡

▲特待生として入学した私立比叡山高校(天津市)硬式野球部で挫折し、1年生だった1982年秋にスキー同好会に移る。担任で顧問を務める川村正さん(74) 現・県スキー連盟名誉会長、大津保護区保護司会長に勧められた▼

スキーを1回もやったことのない大阪の子ですよ。体力だけ



「土平君は生涯の宝物」先生は生涯の恩師と互いに話す川村正さん(右)と土平ドンペイさん 大津市坂本1の川村さんの自宅で

んです。

初めてスキーをするのが1年生の12月末です。高島や安曇川高校とか、県の強豪校の強化合宿が長野県の野沢温泉であったんですよ。ゴンドラやリフトで上ノ平まで上がって、スキーを履いてみてたまげました。つるつる滑って前にも進めない。長い板が交差してすべにこける。帰りは、慣れている選手はシユプール描きながら滑って降りるんですね。温泉村の宿舎までいろんなコースがあって長いんです。シユナイダーコースは大斜度約30度で、下が見えないくらいの急斜面でね。すぐにつるんってこけたんですね。スキーが折れたら困る。買ったばかりで高い高い板だったので、スキーだけ空に向けて、背中でガッツと降りていった。これ速いやん。丁寧に滑っている子より僕の方が速いんですね。そして川村先生に「大会には背中であられへんぞ」と言われて。

▲翌夏は陸上部の強豪校に交じって兵庫県の鉢ヶ高原での合宿に参加し、とにかく走った。川村さんによると、ドンペイさんが夜空を一人で見上げていて、呼んでも振り向かなかった。なぜかと思ったら、目に涙をためており、「振り向いたらごぼれるから」と言ったという。2れぐらい過酷な練習だった。

スキー転向し総体目前



社会人時代の社員旅行。高校時代の練習のお陰で、斜面を滑るのはお手のものだった 長野県の志賀高原で、本人提供

熱いコメント続々

ドンペイさんがフェイスブックで発信し、時間の許す限り、コメントに返信しています。前回は「野球ができないう悔しさがすごく伝わって来ました。この経験が今のドンペイさんを支えているんだと感じました」などのコメントが寄せられました。

年生の2月、高校総体の近畿大会が同県の神鍋高原であり、4人でのリレーに起用された▼

順番発表で先生が「土平、アンカーや」と言われて「一生懸命やったらええんや」。1人4・5分ほど。20〜30チーム出て、上位8チームが総体に出られるんですね。

一走から飛ばして、三走が帰ってきて、なんと8番でした。よし、総体や、はよ行かな。気が焦って、何もないところで転倒しますし、ばんばん抜かされるし。ふっと気づいたら、前にも後にも誰もいないんですね。

後ろから救助用のスノーモービルがびたっと付いて「大丈夫か」。「最後ですか」と聞いたら、「そう。あかんかったら乗せろし」「すいません、ゴールだけさせてください」

坂を登り切って、ラストの下りを行きよったら、ゴールの会場にいっぱい人がいて、何やらと思ったら、閉会式が終わった後で、「最後の選手が戻ってきました」とか言っているんですね。県外の強い学校とかは、あみん(人気女性デュオ)の当時のヒット曲を「私待っつわわ」って合唱して。恥ずかしくてねえ。学校の子は「よう完走した」いうてくれて、先生は宿舎で大笑いして「お前くらいやん、近畿の総体で閉会式の後に帰ってきたん。伝説やぞ」。誰からも責められることがなく、みんなに申し訳なかったですね。

【エリア編集委員・大澤重人】

二つづく、水曜掲載